

Z会進学教室 葛西通信 7月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室の卒業生の声をお伝えします。

「ぼく～前編～」

東京医科歯科大学
歯学部歯学科 1年
目黒 龍征くん

高校受験編

こんにちは。Z会葛西教室を卒業した目黒龍征です。現在は東京医科歯科大学歯学部歯学科に在籍しています。東大や医学部などの最難関に合格した人間ではありませんが、この体験記を通して僕が2回の受験で学んだことをあなたに伝え、役立ててもらえればと思っています。あらかじめ先に書いておくと、この体験記は、僕の高校受験と大学受験を合わせているのでとても長いです。暇なとき勉強の合間にでも読んでくれたらうれしいです。

地元の公立中学へ入学した時、僕は祖母の勧めもあって漠然と両国高校に行きたいと思っていた。しかし成績は振るわず悪化し、中1の学年末の英語で70点を取ってしまった。その時点で三単現のs、ing形と過去形の使い方を全く理解していないうえに、be動詞と一般動詞がよくわからなくなっていた。春休みに入り焦りを感じ、突然英検3級の取得を目指し始めた。

進級し中学2年、基礎から英語の勉強を始めた。はじめはてこずっていたが、6月のある日、主語がtheyの時一般動詞を使った現在形の否定文はthey don'tとなることを知った瞬間、今までわからなかった英語を完全に理解できた。そして7月に3級に合格、その勢いそのまま11月には準2級に合格した。英語ができるようになり自信が付き他教科もできるようになり、12月には定期テストで学年1位になった。

学年1位になり両国では物足りなく感じるようになった僕は、偏差値表を見て戸山高校へと志望校を変えた。しかし、これといった受験を意識した勉強は全くせず3月を迎えた。そのころ、戸山



高校に合格するにはどのような勉強が必要かと考え始め、塾に入るのがいいだろうと思い、祖母に以前から勧められていたZ会の教室で春期講習を受講することにした。講習での授業のクラス分けのために受けた初めてのZ会のテスト。まったく歯が立たなかった。得意だと思っていた理科も時間が全く足らず。ショックだった。自分はなんて頭が悪いのだろうと思った。このテストが原因でZ会が恐ろしくなった。

恐怖の思いを胸に受けた講習一日目。僕は運命の出会いをした。それは国語の授業のことだった。目の前でとてもわかりやすく、とびっきりのスマイルで、そして目の奥では熱意の炎をメラメラと燃やしながら授業をする先生。これが葛西教室長の長妻美恵先生だった。長妻先生の授業を受けて恐怖は吹き飛び、むしろ心地よさを感じ「こんな素晴らしい先生がいるなんて...！」と猛烈に感動した。続く数学の授業では静かに落ち着いた授業をしながらも、超毒舌な（正確には現実的な）先生と出会った。これが阿部真也先生である。「うわぁ超毒舌だ。だけどわかりやす

くて面白い♪」講習期間中はみっちり勉強し、講習受講前を考えれば、春期の確認テストは結構解けた。講習終了後も葛西教室（以後葛西と略す。）の温かくも洗練された、メリハリのある空気のもとで勉強したいと思い、葛西に入塾することを決めた。

4月の本料の初めての授業日、クラス分けの紙を見た僕はびっくりした。「わっ！一番上のクラスだ...」そして担当の先生を確認して飛び跳ねて喜ぶたい気持ちだった。

「...！！国語、長妻先生だ！！やっ
たあーっ！！わーい♪」

「あ...数学、毒舌の先生だ。」

「英語、どんな先生かなあ？」

授業は.....最高だった。相変わらず長妻先生の授業は神だった。阿部先生はやっぱり毒舌だったけれど講習時とは違った、最上位クラスらしい授業を展開。これも素晴らしい。英語は高橋紀子先生という年配の先生。しかし、非常に独特でユーモアあふれた、なおかつエネルギー溢れる授業をしてくださった。

楽しかった。本当に楽しかった。授業のある日はZ会に来てからは籠ってたくさん勉強した。

時間はあっという間に過ぎた。

ある日Z会から帰るとき、阿部先生に呼び止められて雑談をした。そして言われた。

「日比谷どう？」

「ちょっと僕には無理です。」...

しかし結局日比谷高校に志望校を変更することになった。



それ以降は今まで以上に勉強し、夏休みに突入した。夏休みは記憶があまり残っていないがものすごく勉強した。また念のため日比谷、戸山、西の三校の学校見学説明会へ行った。

以下感想。

西は遠いうえに体育会系で即却下だった。日比谷はとてもきれいで清潔感があつたうえ、生徒の皆さんの雰囲気も良かった。（母は超紳士な対応のイケメンなバレーボール部の三年生にメロメロになっていた。）戸山はキツなかつた。（校舎が古いとかではなくそこら中ごみまみれ。）日比谷高校で決定だった。

夏休みが明けて受けた模試では、いままでずっとB判定だった日比谷が初めてA判定になった。順風満帆に進んでいた。Z会のKコースの中でも5番になれるほど学力は伸びた。

9月からは3SJというグループ作成校対策の演習の講座を受講した。ここでまた素晴らしい先生と出会った。数学の北川広平先生、英語の山田喜佐子先生、そして国語の小林哲也先生の三人の先生方のもとでさらに力を磨いていった。10月ごろ長妻先生と三者面談をしたとき、日比谷以外に受ける私立や国立を全部長妻先生と母に決めてもらった。そして12月にはいり、冬期講習も勉強した。年が明けて三が日は日比谷の入試の時間割通りに過去問演習をした。

千葉私立の試験二週間前になり「あれ、千葉私立の過去問まだ手つけてないや。」さすがに焦りを感じ、市川と昭和秀英の問題を急いで解き始めた。過去問ではどちらも最低点を超えていたが、市川は自信がなかった。ここで受験勉強初めての不安を感じた。

不安をめぐえぬまま迎えた市川の試験日、不安で仕方なくペンが動かず数学で大きくこけた。主要三教科が終わり昼休み、トイレの個室に駆け込み声を押し殺してたくさん泣いた。理科社会はさほど問題なくでき、はじめての入試を終えた。翌日、昭和秀英を受けた。こちらは自信があり受け終わったときには合格を確信した。

その翌日市川の合格発表だった。番号はなかった。不合格だった。信じられなかった。できなかったとは思いつつも、何とかなる、きっと受かっている、と思っていた。ここで受験は何とかなるものではないことを身に染みて実感し、たくさん泣いた。その翌日、昭和秀英の発表は学校の技術の授業中にパソコン室で確認した。目の前に表示されたのは「合格」の文字。喜びは薄かった。

その後、千葉私立の反省を生かしてすぐに東京都の国私立対策の勉強に取り組み、自信が持てるようになるまで勉強しようと思い、そして実践した。城北の問題は取り組みやすく、受かる自信が大いにあった。学芸大附属も初めは馴れず点数が伸びなかつたが、過去問演習を積み重ね最低点にもきちんとのるようになり自信をつけることができた。試験前に学芸大附属と城北の下見をしに行った際、学大の美しい校舎と環境に一目ぼれし、学大を第一志望に思うようになってしまっていた。

城北の試験日、手ごたえはあった。結果は、合格。またも喜びは薄かった。

学大の試験日、落ち着いていた。しかし、数学の時間に周りの受験生のページをめくる音に焦り頭が真っ白に。数学で失敗した。そこでこけたというコンプレックスが災いし、練習では90%前後得点できていた国語でも失敗。他教科は平常通りできた。高得点勝負の学大の不合格は一目瞭然だった。しかし市川の教訓、受験は何とかなるものではないということを忘れて合格していると思い込んだ。学大は不合格だった。今思えば幼かった。板の掲示板を10回以上見直したがなかった。母



に言われてようやく我に返った。日比谷よりも行きたいと思っていたのに。絶望した。近くの公園で2時間ほど泣き続けた。そのせいで母と妹は風邪を引いた。大本命の学大に落ち、無気力で何をする気にもなれなくなり、家でもすすり泣き続けた。まったく勉強できなくなった。

1週間ほどたち突然、日比谷に合格するためにふたたびペンを握ることを決意。「自習室行ってくるね♪」と言って、笑顔で見送ってくれる母と妹のいる家を後にし、葛西へ向かった。それから4日間、無我夢中で勉強した。

本番前日の木曜日、普段は休みの葛西が受験生のために自習室を開けてくれていた。その日は最後の過去問演習をした。僕は5年分（本一冊分）しかやっていなかったが、すべての年度で受験者平均点を大きく超えていて過去問をやればやるほど点数も伸びていた。安心して翌日を迎えられるはずだったが、帰り際になって涙があふれ出てきた。

「もう戦いたくない。競争なんてヤダ。天才的な頭脳を持っていない僕は日比谷の求める生徒でない。」

そんな僕を北川先生が慰めてくださりこうおっしゃった。

「日比谷は天才よりも、努力し続けられる子を求めていると思う。努力し続けることなら目黒にもできるだろう？だから日比谷の求めている生徒でないことはない。」

この言葉は僕を大いに勇気づけてくれた。泣き止み長妻先生と北川先生に見送られて帰宅。家では母がおいしいカツカレーを作って待っていてくれた。ご飯を食べてすぐに眠れた。よく眠ることができた。

試験当日、目覚めがよくなぜだか頭もすっきりしていた。「制服は固いし寒いしヤダ」といって私服（一応黒の無地）を着ていった。「ぶっちぎってくる」そういって家を出た。

会場までは、祖母と一緒にいった。永田町の坂を下っているとき、「これは日枝神社のまさる守りだよ。誰よりも「勝（まさる）」思いでがんばっておいで。」祖母はそう言ってかわいらしい白いおさるのお守りを握らせてくれた。日比谷前につき、祖母と別れて中へ入ろうとしたその時、馴れ親しんだ、頼もしい声が聞こえた。長妻先生と北川先生だった。今まで受けてきたどの学校で

も会えなかった先生方。すごうれしかったし、「ああ、長妻先生がきてくださるほどすごい学校なんだ。」と思い、日比谷を受験することを誇らしく思えた。二人と熱い握手を交わし、中へ入った。

中では緊張した様子の受験生が多くみられた。分厚い参考書を目にもとまらぬ速さでめくっている人もいた。学大の時のように周りの受験生に圧倒されることはなかった。試験は例年よりも簡単に感じ、するすると解けた。あつという間に一日は終わり「受かった。わーいわーい♪」と会場を出てスキップしながら帰った。その日のうちに葛西へ行き



手ごたえを報告。「なんか、受かっている気がします♪」なんて今思えば馬鹿なことを言っていたが、小宮さんは笑顔で聞いてくれた。それから発表日までノンストレスの日々を送った。落ちていたらどうしようなんて気は全く起こらなかった。が、発表5日前になり、能天気な僕を見かねた母が「自己採点しなくていいの？学大みたいになるの嫌だよ。」自己採点してみると、全体的に思ったほどうまくいってなかった。わーい、かんたーん！と思っていた数学で計算ミス。急に、「ああ落ちたらどうしよう」と思い始めた。それでも、わくわく60%不安40%と樂觀的だった。

発表日、わくわくしながら日比谷に向かった。日比谷につくと、人がいっぱいいた。喜んでいる人もいれば隅ですすり泣いている人もいた。どちらの側に自分はなるのだろうかとかドキドキしながら掲示板を見た。

僕の番号はあった。

涙こそ出なかったが、ほっと落ち着いた。その後まもなく阿部先生に遭遇。もう一度一緒に確認して合格を再確認。阿部先生の電話を借りて葛西にも報告した。電話に出られた荒井さんも喜んでくださった。その後、合格証明書、誓約書などいろいろな手続きを済ませ日比谷を出るころには3時前。しかも土砂降りの雨だった。併願校の手続き締め切りは3時だった。母が心配しているだろうと思いい、急いで家へ帰った。玄関を開けると母が不安な面持ちで出てきた。すぐさま、「受かったよ。」と言った。母は涙を流し喜んでくれ、僕も母の涙を見て涙が出てきた。こうして僕の高校受験は終わった。

大学受験編（高1～高2）

しかしここから今度は大学受験が始まった。大学受験では高校二年生までは模試をあまり受けていなかったのので、Z会のテストの数字を使っています。

中学校を卒業しただらしていた僕は、葛西の卒業パーティーで久しぶりに会った長妻先生に勉強をしていないことを言うと、笑顔ながらも「やらなきゃ。」と言われ、勉強しなければと思い、まずは図形やグラフを描いてみた。放物線はただの曲線、円はじゃがいものような形しか書けなくなっていた。これに焦りを感じ、勉強を本気ではじめた。



その後お茶の水教室で「日比谷の先輩にきく」という講演会があった。そのときの司会をしていたのが戸神星也さんだった。この時はまだ何も接点はなかった。講演を聞いてZ会を続けることを決意、母に頼んでZ会に継続して通えることになった。しかも幸運なことに、その年から葛西に大学受験部が設置されることになったので、黒磯先生の英語（東大英語）と阿部先生の数学

（IAⅡB速習講座）を受講することにした。

2017年4月、日比谷高校に入学した。

黒磯先生の英語はととても分かりやすかった。基礎から理路整然とした板書で丁寧に教えてくださり、毎授業の復習をきちんとすればしっかりとついていける授業だった。授業の帰りのバスの中で、または歩きながら授業の復習をして、翌日もう一度見返しながら学校で購入したCROWNという文法書を使って次の授業の前にもう一度ざっと見返す、というサイクルを繰り返した。

数学ははじめはついていけたが、授業が非常に濃密で復習と脳みそのキャパシティが追いつかず次第に遅れをとっていったが、空き時間にノートを開くことを心掛け少しずつ復習していった。しかしこのときは英語にものすごくはまっていて、数学が重要科目であることをわかっていながらも英語ほど熱心に取り組むことはできなかった。

そうして時間が過ぎ、初めての定期テストを迎えた。総合順位は328人中66番だった。英語はZ会の勉強のおかげで90点台にのり順位は1桁だった。一方数学は49点。スタートダッシュからこけた。国語は普通の点数だった。同じ時期くらいにあったZ会のテストでは英語が80点で順位は10番前後だった。数学は66点（平均点以下）だった。この時期の勉強時間は平日3時間、休日は5時間勉強していた。

夏休みに入った。僕は夏休みが苦手だった。

せっかく学習計画を立てても、長くてだるい夏休みに初心のまま勉強することは難しく、Z会の自習室に行くのも講習がない限りは行く気力が出なかった。

平成30年度 日比谷高校現役進学先【国公立大学】

大学名	現役合格数	進学数	進学率
東京大学	33	33	100%
一橋大学	16	16	100%
東京工業大学	3	3	100%
京都大学	4	4	100%
北海道大学	10	10	100%
東北大学	2	2	100%
名古屋大学	0	0	-
大阪大学	1	1	100%
九州大学	0	0	-
お茶の水女子大学	4	4	100%
千葉大学	15	14	93%
筑波大学	5	4	80%
電気通信大学	0	0	-
東京医科歯科大学	1	1	100%
東京外国語大学	5	5	100%
東京海洋大学	0	0	-
東京藝術大学	0	0	-
東京農工大学	3	3	100%
東京学芸大学	8	8	100%
横浜国立大学	8	4	50%
首都大学東京	2	2	100%
横浜市立大学	1	0	0%
その他国公立	11	11	100%
防衛医科大学校	1	0	0%
防衛大学校	1	1	100%
航空保安大学校	1	1	100%
国立看護大学校	1	1	100%
気象大学校	0	0	-
国公立大学合計	136	128	94%

出典：都立日比谷高等学校PTA平成三十年会報

作成：momnapapa「日比谷高校を志す君に贈る父の言葉」

夏期講習では、数学で三角関数とデータ、英語で不定詞、分詞を習った。葛西に来たときは閉室時間までみっちり勉強した。そのかいあって、確認テストの英語では91点を取って2番になることができた。一方数学は三角関数の公式の証明（のちに阿部先生の証明がとても丁寧だったとわかる）を理解し覚えるのに苦労した。この時点で数学にかなり苦手意識を持っていた。また夏休み限定で長妻先生の国語が開講された。春に長妻先生に、「夏休みまでに動詞の種類と活用、夏休み中に助動詞をマスターできるといいね」と言われていたので、夏休みまでに動詞を、長妻先生の講習までに助動詞の意味、活用、接続のすべてをマスターした。おかげで、長妻先生の授業をとっても有意義なものにできた。

しかし葛西での講習が終わった後は、案の定あまり勉強できなかった。夏休み明けの期末考査は、散々な結果となった。順位も70番台に落ち、気分もがた落ち。次の定期テストではいい点数をとろうと思い、後期は勉強時

間を増やした。

12月の定期考査では数学も伸び、順位も2桁に食い込むようになった。英語では92点をとり学年2番になった。この時から古典が伸び始め、順位は13番になった。総合順位は49番になった。50番というのは一つの目安で、日比谷では50番以内に入ることができれば東大をはじめとした難関大学どこにでも入れると、長妻先生からも日比谷の先生の間からも聞いていた。だからうれしかった。Z会の確認テストでも英語が82点で順位は一桁。数学が73点で平均点を優に超えるようになった。

そして冬休みに入った。短い冬休みは立てた計画を最後までやり抜くのに適していた。学校の宿題をさっさと終わらせてZ会の勉強に懸命に取り組んだ。平均して毎日12時間勉強できた。確認テストの英語では、3、4番くらいになれた。冬休みはとてもうまく使えた。冬休み明け以降はZ会の勉強をメインにやるようになった。

そうして勉強を続け3月になった。定期考査はあまり時間をかけて準備をしなかったのが前回よりも下がってしまったが、Z会の勉強を頑張ったかいがあり、学年末確認テストでは、有終の美を飾ることができた。学年末は初めて国語の試験があり、3教科の試験だった。英語は89点でついに1位に輝いた。国語は93点で2番だった。数学は問題が非常に難しく35点だったが30番台に入った。国語と英語で選抜クラスの認定も出た。うれしかったが、問題の難易度に多少の差はあれ数学の35点はひどかった。数学だけ選抜認定が出なかったのが悔しく、数学に力を入れた学習計画を立てた。この時点では行きたい学校にも特にこだわりがなかったので、日本で一番難しい東京大学理科Ⅲ類を目指すことにした。



春休みは1年生で学んだⅠAⅡBを、とくに理解の浅いⅡBに重点を置いて勉強した。理系に進むなら数Ⅲが必要であったので、結果として文系に進むことになったとしても無駄にはならないからということで、母に頼んで葛西で新しく数Ⅲを受講することになった。春休みも冬休み同様短いので、やる気が持続し有効活用できた。

2018年4月日比谷生として2度目の春を迎えた。学校でも本格的にⅡBの勉強が始まり、また理系に進むなら使おうと思っていた物理と化学も始まった。2年生は国語にも力を入れて勉強しようとして春休みから準備していた影響で、国語とりわけ古典にとてまはまっていた。古文は授業で使われる文章の品詞分解を助詞の用法にまで行い、敬語をマスターする一環として敬語の種類、誰から

誰への敬意かなどを一つ一つ分析し、その他の特殊文法のcheckをしたうえで和訳を作っていくといったサイクルを作り、一つの文章を味わい尽くすよう心掛けた。漢文は1年生の時に覚えた120の句法をもう一度復習、音読、暗記、そして1年生の時にははじめていたマイナーな句法も覚えていった。また、出会った漢字であまりなじみのないものや頻繁に出てくる漢字を調べたり、自分からも新明説漢文(漢文の文法書)に掲載されている漢字を勉強して漢文の語彙をつけようと勉強した。2年生になり、勉強時間は平日5時間、休日8、9時間ほど勉強していた。

Z会では、英語の授業では英文和訳や軽い英作文、読解など、1年生で身に着けた文法を駆使していく勉強がメインになっていき、システムティックに文法を振り回すのがとても楽しかった。数学はⅠAⅡBのコースとⅢのコースの2つができた。ⅠAⅡBコースは問題演習を通してⅠAⅡBの礎を固めるもので、ⅢコースはⅠAⅡBをもとに新しく数Ⅲを勉強していく授業だった。ⅠAⅡBがまだ未熟な僕にとって数Ⅲはとてハードで、授業が楽しいと同時に苦しかった。阿部先生はそんな僕を気にかけて下さりとて丁寧な先生に教えてくださった。勉強するものが増え、手探りの状態で進み続けて迎えた前期中間考査。勉強の成果が実を結び、古典は学年3位になった。英語も特にテストに向けた勉強をせずとも一桁の順位をとることができた。物理、化学もまずまずの点数が取れた。しかし数学Bでなんと19点をとった。計算ミスが重なってしまった結果だった。とてもショックで恥ずかしかったが、Z会の実力テストを2週間後に控えておりまた、選抜クラスに行く行かない以前に、選抜認定は持っておきたい、いや持たねばならないと思っていたので気持ちをすぐに切り替えて実力テストに向けて勉強した。テストは大きく失敗することなく無事に終わった。

夏休みに入り葛西に自習に来たある日、小宮さんに呼び止められ、この前のテストで3教科すべてで選抜認定が出たと知らされた。すごくうれしかった。8月の1週目まではきちんと計画通り勉強できたが、やはりやる気が切れてしまい残りはすべてゲームをするのに使ってしまった。結局2年生の夏休みは1年生以上に失敗してしまった。

夏休み明けの定期テストでは、付け焼刃の勉強でなんとか70番台で踏みとどまれたが、いい結果ではなかった。夏休みを無駄にしてしまったのが悔しく、勉強をすさまじいほどにした。睡眠を犠牲にして平日は8時間、休日は15時間という生活を3か月続けた。また、数学が伸び悩んでいることに危機感を感じ勉強法を変えた。教科書傍用問題集(僕の場合はサクシードでした)を計測して問題を解くことを3周繰り返した後、月刊大学への数学の問題をすべて解いた。たくさん勉強を

するようになってから、世界史で予習、授業、その日のうちに復習、予習、翌日もう一度復習というサイクルを確立でき、世界史がものすごく楽しくなり、理解も深められるようになった。一方物理は飽きてしまい勉強時間が減っていった。

12月になり迎えた定期テスト、自分でも信じられないくらいにできた。英語は相変わらず順位で一桁をkeepし、国語も現代文、古文ともにできた。今まで点数の伸びなかった世界史も84点で20番台にまで伸びた。数学も見違えるようにできるようになり、順位はⅡBともに20番台だった。物理が他教科に比べて低かったせいで1桁にはなることはできなかったが、総合で12番になった。その後のZ会の実力テストでも実力をしっかり発揮でき、翌年の受験生クラスの選抜認定を3教科すべてでとることができた。



このころ理系に進むか文系に進むかを長妻先生に決めてもらった。僕はあらゆる分野に興味があり、文理選択によりもう一方の分野を捨てることになってしまうことが嫌で仕方なく、またこれといった苦手科目もなかったので自分では決められなくなっていた。また、部活の先輩に将来の夢を聞いたときに、企業弁護士という職業の存在を知って少し興味を持っていた。母には、物事を淡々とこなすのが得意だから国家公務員に向いているのではないかと、言われていた。そこで長妻先生に相談した。長妻先生はこうおっしゃった。「弁護士は口で戦うのが仕事だから、あなたの口は人と争うことには向いていない。国家公務員も違う。あなたは理系。その中でも特に医者か歯医者が向いていると思う。」これを聞いて僕は理系に進む決意が固まった。志望校、これからの受講講座については長妻先生と、夏に選抜認定を取ってから関わるが多くなった大学受験部の戸神さんに相談して決めた。やりたいことが特になら東大に行けと言っていた阿部先生のことを思い出し、東大理系を目指すことにした。受講講座は、選抜認定を持っているのなら選抜クラスに行ったほうが良いと戸神さんに言われたのと、1月からの本科0期では、葛西での授業が平日の2日間に分かれるようになった（授業は平日のある1日にまとめられるか、もしくは土日に受けたいと思っていた）ので、馴れ親しんだ葛西で安心して授業を受けられなくなることは残念だったが、選抜クラスに行くことにした。

冬休みに入った。0期の授業に向けて今までの復習をした。また冬休みには0期から新宿で受けかなか知りえない、その形に至るまでの経過や理由などを教えてくださり文法が確実に定着した。

to be continued...

高校1年生の皆さんへ

入学早々から自宅でのオンライン授業や課題遂行などで、いつ高校に行けるのか、このままの学習状況で大丈夫なのかなど、不安も多く非常に大変な生活だったことと思います。やっと学校が始まり、新たな出会いや部活動、難度の高い学習など、新生活に少しずつ慣れてきた頃でしょうか。自宅学習から学校での生活に変わり、心身の疲労がたまっている頃かと思いますが、くれぐれも体調を崩さぬよう気をつけてくださいね。

さて、学校での生活が始まりましたが、夏休みを前にこれまでの学習状況を省みてみませんか？4月からの自宅学習という状況で、学校から多くの課題を出される中、提出期限内にひとつひとつ終わることは苦労したことでしょう。しかし、課題を終えることに意識が向きすぎて、単元の理解のために集中して学習したり、復習に努めたりできていたかも自分自身のこれからのためにも振り返ってみましょう。

高1の夏休みまでの時間というのは、高校3年間の成績を左右し、大学入試を成功させるために重要な時期です。

成績を伸ばしていくためには適切な方法で効率よく学習していかねばなりません。つまり「**自分にあった学習方法**」で「**計画的な学習**」をしていくということです。これはすぐに身につけることができませんが、高校生活はあっという間に過ぎていきますので、高1の4月から意識して早い段階で身につけていけることが理想です。

「自分にあった学習方法」を身につけるために

単語や語句などの暗記学習は中学で学ぶよりはるかに膨大な量の暗記をしていくこととなります。効率よくやっていかなければ「時間が足りない」という状況に陥ってしまいます。たとえば英単語を1日30個ずつ覚えていくことはできても、1ヶ月前に覚えた単語の品詞や意味をすっかり忘れてしまったとなれば、学力だけでなく学習意識も低下してしまいかねません。暗記を効率よくやっていくために「今日は1～30の単語、明日は31～60の単語・・・」でなく「今日は1～30、明日は1～30を確認してから31～60・・・」と既習部分を重複して暗記していくと、忘却を最小限におさえることができます。

また、数学など、多くの知識を活用して解く問題が増えてきて、暗記した後の知識の活用をする練習が必要になります。「なぜその答えになるのか」ということを説明できる段階になって、解答までの筋道を理解したということになります。そのために一度解いた問題を、授業時の解説を頭に浮かべるか声に出すかしつつ解き直していく時間をとることが必要です。

「計画的な学習」をするために

自宅学習から一転して学校に通い出すと、1日に確保できる学習時間が限られてくることで、学校の予習や部活動などで単元の復習をすることができなくなっていつてしまう人が毎年多いです。まずは各曜日、学校や部活動、学校の予習時間以外で1日あたりどの程度学習時間を確保できるかスケジュールを紙に書き出してみましょう。また、その時間を有効活用するためにどの曜日に何を学習するか計画を立てていきましょう。

しかし、次第に立てた計画の通りに学習することはとても困難です。したがって、月曜日～土曜日は計画を立て、土曜日の夜に1週間の学習状況を省み、やり残したところや定着しているか不安なところなどを日曜日に取り組み、という曜日で学習するものを決めていき、予備日を設けると計画通りに進めやすくなります。

今後の参考にさせていただければと思います。いくつかのアドバイスを記述いたしました。もっともっと学習アドバイスをしたいのですが、皆さんそれぞれの状況に合わせたお話の方が、より皆さんの力になれると思います。現在、高校1年生の皆さんと生徒面談を開始しております。進路のお話や、個々の状況にあわせた学習アドバイスなどをしております。大学受験の基幹科目となる英語・数学という、科目ごとのアドバイスや、限られた時間の中で効率よくやっていくにはどんな学習をすればよいかなど、時間のやりくりで苦労するこの時期に重要となるアドバイスもおこなっております。卒業生の皆さん、学習面や進路面の不安があればぜひとも葛西教室までご連絡ください。

スケジュール

月	日	曜	受付時間	授業・テスト・模試など				保護者会・研究会など	
7	1	水	14 ~ 22						
	2	木		休室					
	3	金	14 ~ 22						
	4	土	12 ~ 22						
	5	日	9 ~ 20	7月度①	2V 6月度 月例テスト		1V 6月度 月例テスト		
	6	月	14 ~ 22						
	7	火	14 ~ 22						
	8	水	14 ~ 22						
	9	木		休室					
	10	金	14 ~ 22						
	11	土	9 ~ 22					9:30~中3対象 公立トップ高適性診断	20:30~21:30 高1保護者会(ZOOM)
	12	日	9 ~ 20	7月度②					
	13	月	14 ~ 22						
	14	火	14 ~ 22						
	15	水	14 ~ 22						
	16	木		休室					
	17	金	14 ~ 22						
	18	土	9 ~ 22						
	19	日	9 ~ 20	7月度③					
	20	月	14 ~ 22						
	21	火	14 ~ 22						
	22	水	14 ~ 22						
	23	木		休室					
	24	金	14 ~ 22						
	25	土	12 ~ 22						
	26	日	9 ~ 21	休講日	3K 7月度 実力テスト	2V 7月度 実力テスト	2K 7月度 実力テスト	1V 7月度 実力テスト	
	27	月	14 ~ 22		3K 講習① 英数国				
	28	火	14 ~ 22		3K 講習② 英数国				
	29	水	14 ~ 22		3K 講習③ 英数国				
	30	木	14 ~ 22		3K 講習④ 英数国				
	31	金		休室					